



昭和五十二年七月七日 発行

定価 一三八〇円

■ 草 の 実 ■

著 者 竹久夢二

発行人 山本一哉

発行所 ノーベル書房株式会社

東京都新宿区西大久保一の四三三 西北ビル

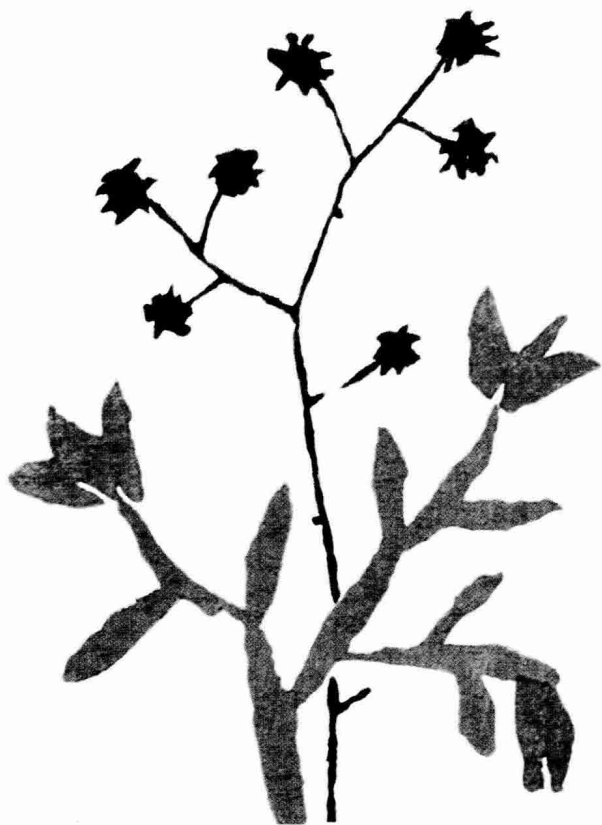
☎二〇〇—〇一六〇

☎一六〇

印刷所
製本所

凸版印刷株式会社

富世





少年の春



炬 燵



春の雪

草 の 実

竹久夢二

ノーベル書房



きみはカイロの手品師か
白く華奢なる指をもて
赤い毛糸をつまぐれば
あやとりかけとり水車
さてはべん／＼ことかいな
指にからまる赤糸の
あはれはかなきわが心

はしがき

わがこの稚き物語を、「こがね丸」の作者におくる。

氏は、わが国の少年作者として最初の人であつた。また少年の国の国王として、ながい間、小ひさな我儘な国民の敬愛おかざる人であつた。

誰でもが曾て一度少年であつたごとく、あらゆる人の記憶から国王の名は忘れられないであらう。

他日、少年の夏の公園に、日本の少年作者を記念すべき何者かが残されるならば、それは氏の銅像であらねばならぬ。わたしは曾て少年の国の国民のひとりとして、この稚い物語を氏に贈ることをこのうへない喜びとする。

草の实

目次

春の鳥

少年と春……………元

花娘……………四

盲目の少女……………六

さようなら……………九

順礼歌……………全

つぎく草

瀬戸通ひ……………九

逃れゆきし小鳥	二〇
あざみの花	二四
白い薬	二七
たそがれ	二九
つき／＼草	三三
里をゆく旅人	三五
春の雪	三〇
機を織る娘	三三
指	三六
夏祭の夜	三九
その夜の宿	四四
聖地	四九
島の異人さん	五五
妹	五九